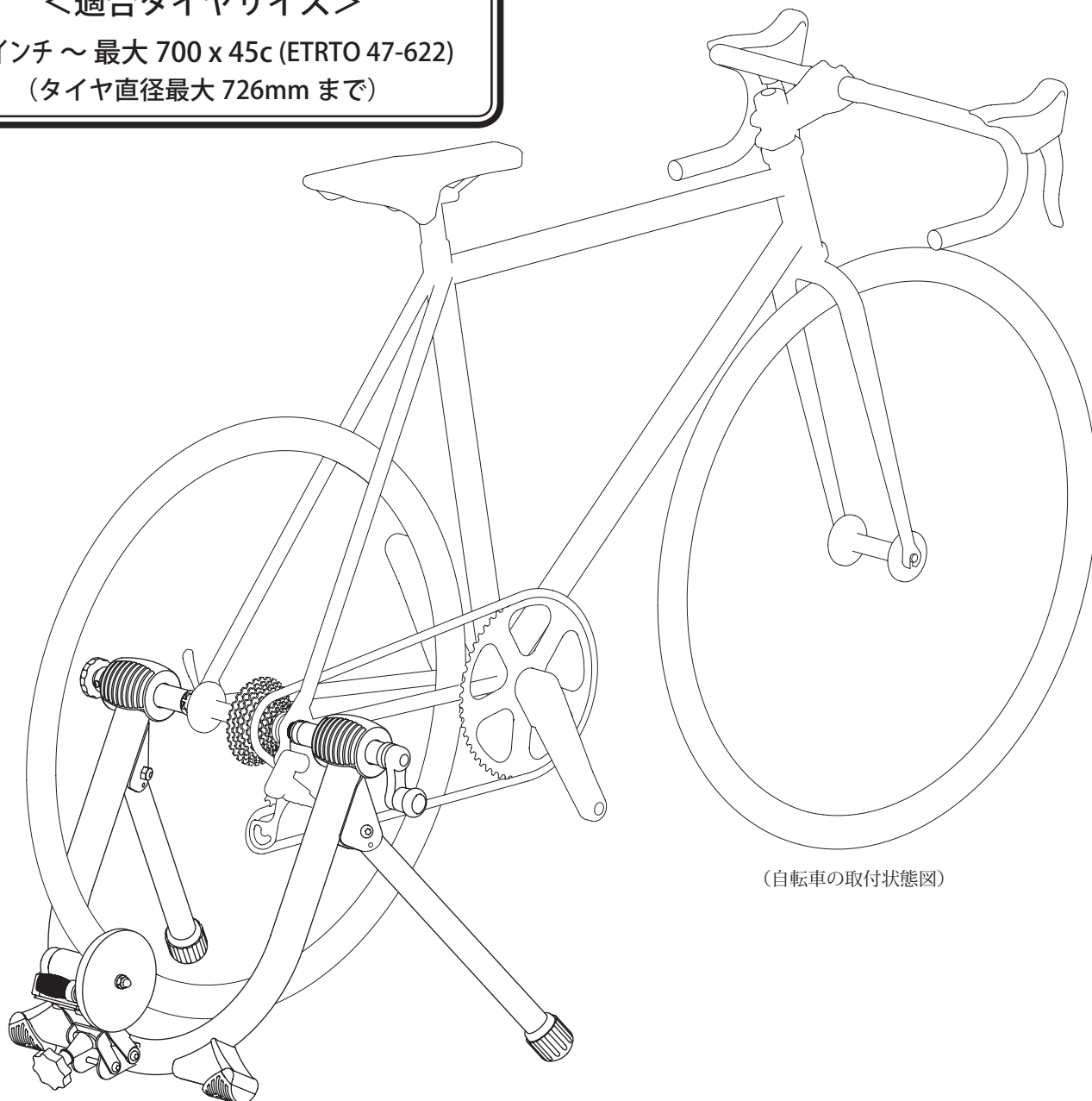


**<適合タイヤサイズ>**

24インチ～最大 700 x 45c (ETRTO 47-622)  
(タイヤ直径最大 726mm まで)



(自転車の取付状態図)

**ご使用になる前に、この説明書をしっかりとお読みください。**

**お問い合わせ先**

修理をご依頼の場合は、まず添付の製品保証規定をよくお読みになった上で、まず最初にお買い求めになったショップにご相談ください。

**<販売元>****株式会社 フカヤ**

〒460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37  
フカヤビル 3F

Phone (052) 228-8910 / Fax (052) 228-8917  
[www.fukaya-nagoya.co.jp](http://www.fukaya-nagoya.co.jp)

**<製造元>****株式会社 箕浦**

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1  
[www.minoura.jp](http://www.minoura.jp)

**● 営業部**

Phone (0584) 27-3131 / Fax (0584) 27-7505  
[minoura@minoura.jp](mailto:minoura@minoura.jp)

**● カスタマーサービス**

Phone (0584) 27-3133 / Fax (0584) 27-4258  
[infodesk@minoura.jp](mailto:infodesk@minoura.jp)

## 注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデム車やリカンベント車など特殊な自転車、内装変速機付自転車には不適です。
- 後輪ハブ幅への対応はトラックエンドの110mmから165mmまでです。一般的なロードやクロスバイク、MTBのほか、ハブ幅の狭いピストやBMXにもお使いいただけます。  
ブロックタイヤのままでは騒音と振動が大きいので、スリックタイヤに交換してお使いください。
- 24インチから最大700x45c(ETRTO 47-622)までのタイヤにフィットします。ファットバイクを含む大径29インチサイズのタイヤはこのモデルでは使用できません。ただし26x1.0インチ(ETRTO 25-559)以下のサイズのタイヤで使用する場合は、別売オプションのZ型をした小径ホイールアダプタを負荷装置の下に装着する必要があります。
- 使用する自転車のホイールがクイックリリース式である場合は、添付のクイックリリースに取り替えてください。添付のクイックリリース以外ではレバーの形状が異なるため、安定して自転車が装着できません。  
クイックリリース式ではない通常のハブナット式のホイールの場合は、添付のクイックリリースは使用せず、右側カプリング(F-1)からグロメット(F-9)を取り外してお使いください。

### クイックリリースとは：

工具を使うことなくレバー操作だけでワンタッチでホイールの脱着ができる機構。ハブナット式ホイールをクイック式に変更するにはハブ自体を交換する必要があり、それはホイールの組み直しを意味するため非現実的です。

- トレーナーは水平で平坦な床の上に設置してください。傾いた場所での使用は転倒の恐れがあります。  
床の材質によってはゴムキャップにより変色することがあります。またトレーニング中には汗を大量にかくので床やカーペットを汚してしまいます。自転車とトレーナーの下に防水シートや専用マットなどを敷いてください。
- 負荷装置のローラーをタイヤに押し当てる量は説明に従って適切に調整してください。ローラーを強く押し付け過ぎたり、逆に軽く触れる程度でしかない、タイヤは異常磨耗を起こしてしまいます。  
タイヤドライブ式トレーナーにおいては構造上タイヤの磨耗は避けられませんが、適切に調節することにより、路上走行並みに寿命をのばすことは可能です。  
またローラーの磨耗をできるだけ少なくするため、自転車を装着する前には、タイヤに付着した砂埃などをきれいに拭き取っておいてください。ローラーは消耗品です。磨耗が1.8mmを超えたら交換してください。
- 左側のホイール位置調整ノブはホイールを締め付けるためのものではありません。締め付けをするのはあくまでも右側のハブハンドルのみです。
- MagRide-Qは可搬性を重視した設計のためリモコンシフターは装備されていません。また装備することもできません。  
負荷調整をするには、いったん自転車から降り、負荷調整レバーをスライドさせて行ないます。  
負荷変更はホイールやローラーなどが回転している間には行なわないでください。指などを巻き込まれる恐れがあります。また小さな子供やペット、倒れやすいものなどを使用中のトレーナーに近づけないでください。  
負荷調整の代わりに、自転車側のギアを操作して負荷量を変更することはできます。
- もし使用中に異常なおい・振動・異音などを感じた場合は、すみやかに使用を中止し、お買い求めになったショップにご相談ください。
- 自転車のトレーニング以外の目的には使用しないでください。またこのトレーナーにおける運用速度は最大限45km/hまでとし、それ以上の速度での使用はユーザ自身のリスクとします。
- 弊社はこのトレーナーを最初に新品で購入したユーザに限り、ご購入後1年間の品質保証期間を、負荷装置およびフレームに設けています。弊社の設計・製造上の不具合点に起因するトラブルに関しては、この期間中は無償で対応します。ただしユーザによる誤った使い方や破損、弊社の許可を得ないままの改造や分解、最初から想定されている自然磨耗や消耗、および輸送中の取り扱いによる破損・汚損などについては、弊社はその責を負いません。  
またいかなる理由があろうとも、いっさいの中古品や並行輸入品に関しては日本国内での保証の対象外とします。  
詳しくは添付の「製品保証規定」カードおよび弊社ウェブサイト(www.minoura.jp)をご参照ください。

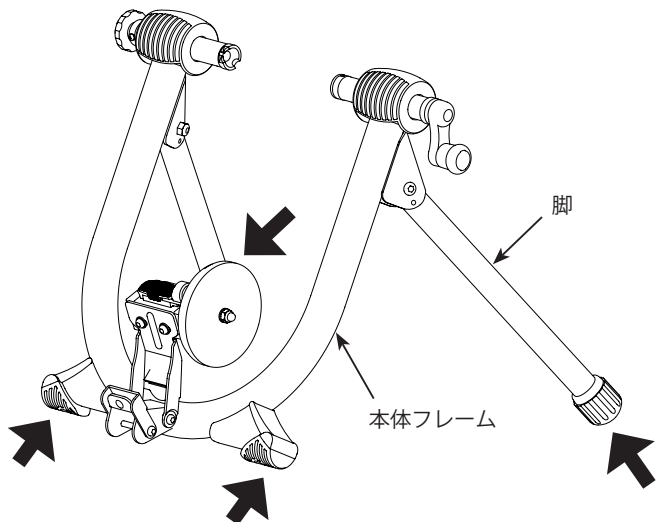
## MagRide-Q のセットアップ

MagRide-Q では負荷装置はあらかじめ本体フレームに取り付けられています。

組み付けが必要なのは、ローラーをタイヤに押し付けるための「ローラー加圧調整ノブ」を本体フレームに取り付けることです。

1

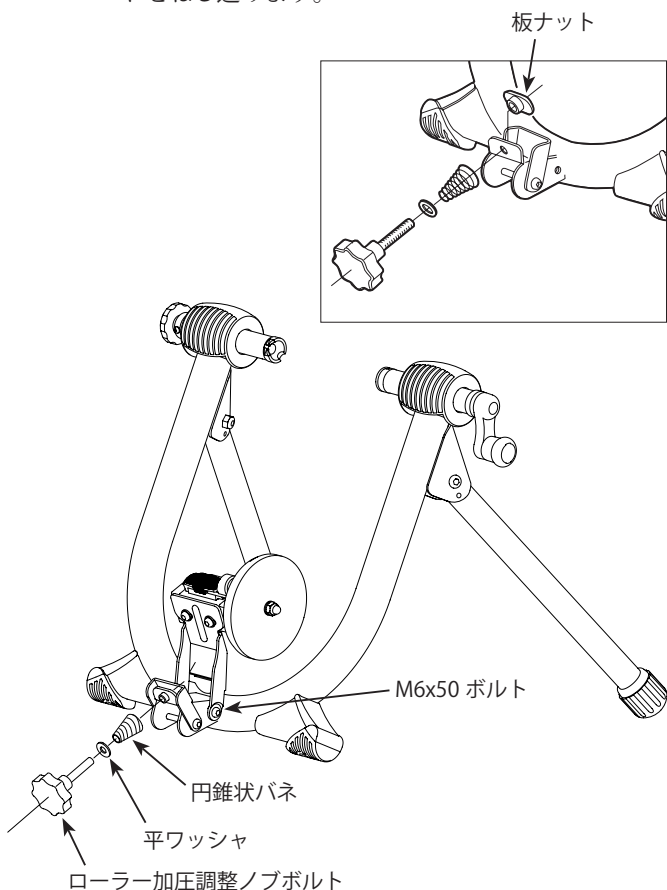
脚をいっぱい広げて、床の上に置きます。  
4点があたつきなく同時に床面に接地していることを確認してください。



もし片側の脚が少し浮いてしまっている場合は、低くなっている方の脚をつかんで強く上に引っ張りあげると、ずれが直って4点接地ようになります。

2

板ナットをを本体金具の孔の裏側にはめ込み、そこに表側からバネと平ワッシャを通したノブボルトをねじ込みます。



円錐状バネの向きは図の通りにして  
ください。  
誤った向きだとノブボルトをスム  
ースに回せなくなります。

3

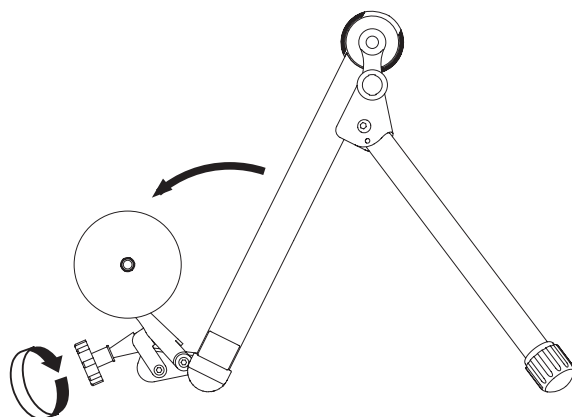
負荷装置はあらかじめ本体フレームに取り付けられていますが、仮止めですので微調整が必要です。  
M6x50 ボルトの締め付け具合が適切になるよう、M4 六角レンチと 10 ミリスパナで調節します。

強く締め付け過ぎると負荷装置は動かなくなってしまいます。  
逆に緩すぎると、負荷装置が早く動きすぎて指などを挟む恐れがあります。  
持ち上げて離れた負荷装置が 0.5 秒ほどかけて、じわっと降りてくるくらいが適切です。

4

ノブボルトは、右向き(時計回り)に回すとローラーは前方に移動してタイヤに接近し、左向き(反時計回り)に回すと後方に移動してタイヤから離れていきます。

ここではまず自転車を取り付ける前の準備としてノブボルトを左に回して負荷装置を大きく手前に引いておきます。

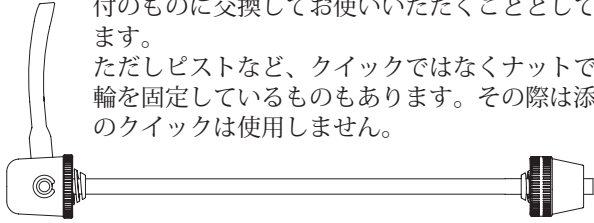


# クイックリリースについて

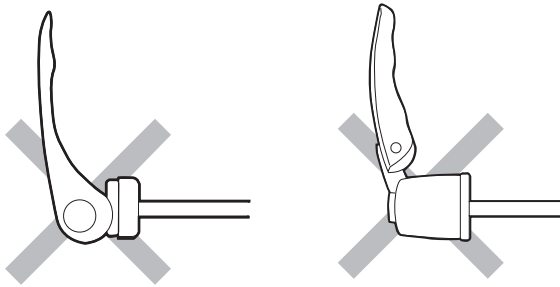
クイックリリースとは、工具を使わないで車輪を簡単に脱着できるようにするための部品で、ほとんどのスポーツ用自転車の前後輪に使われています。

MagRide-Q では、後輪のクイックリリースを添付のものに交換してお使いいただくこととしています。

ただしピストなど、クイックではなくナットで車輪を固定しているものもあります。その際は添付のクイックは使用しません。

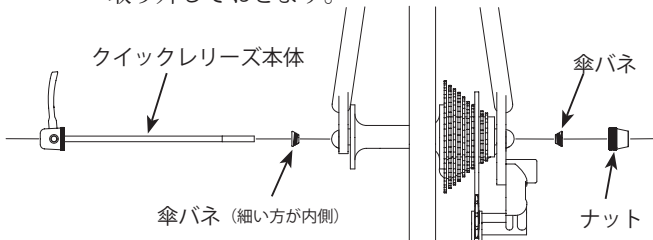


**!** 以下のような形状のクイックのレバーは MagRide-Q のカップリングには適合しません。

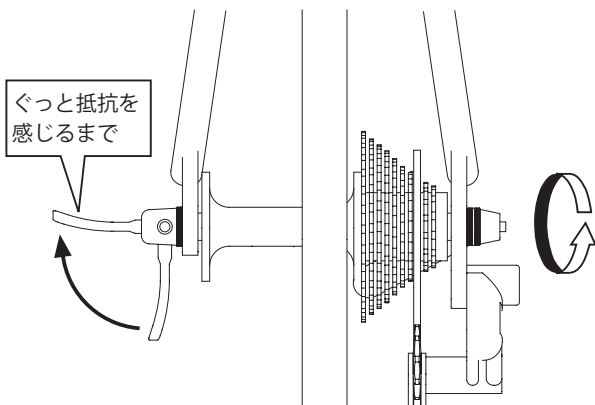


**!** お使いになる自転車がクイック式ではない場合は、添付のクイックリリースは使用しません。その際は右側カップリングの先端に付いている黒い樹脂キャップは取り外しておいてください。

**1** まず自転車に付いているクイックリリースを取り外します。倒してあるレバーをを起こして締め込みを緩め、ナットを緩めて外します。ナット側の傘バネも一緒に取り外しておきます。



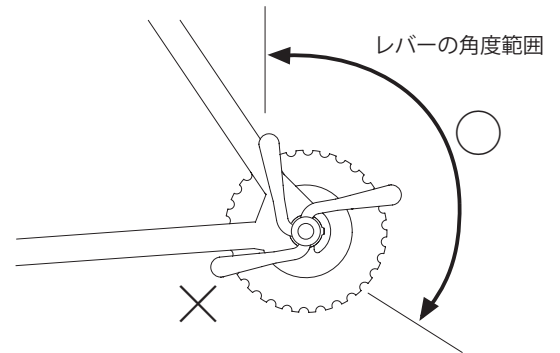
**2** MagRide-Q に付属のクイックを、シャフトに左側の傘バネを通してから後輪の左側から差し込み、反対側にバネとナットをねじ込んで取り付けます。ナットの締め込みはまだ適当なままです。



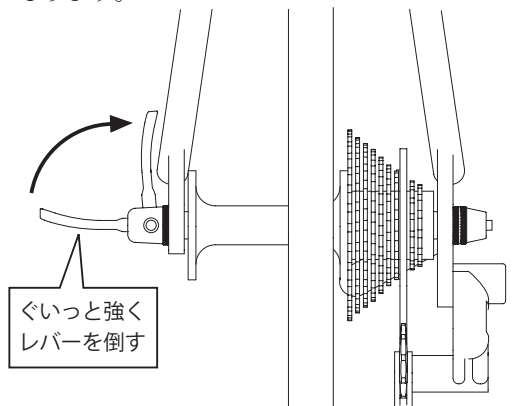
いっぱい開いたクイックリリースのレバーを起こして行ってシャフトとほぼ平行になるくらいになったときに初めて抵抗を感じるようになるまで、ナットの締め込み加減を調整します。

**!** 傘バネは細い方が内側です。

**!** クイックリリースのレバーの向きは左正面から見て12時から4時までの間にしてください。それ以外ではトレーナーに取り付けた自転車が荷重で脱落してしまう恐れがあります。



**3** クイックリリースのレバーを手のひら（親指のつけね部分）に当て、ぐいっと力強く締め込みます。手のひらにレバーの跡が残るくらいの力が必要になります。



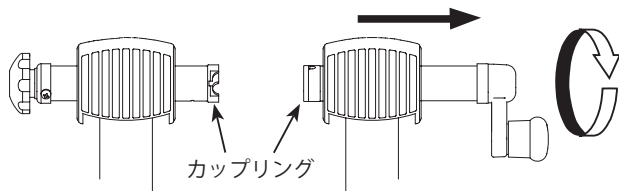
**!** レバーを締め込む際に、後輪がちゃんと自転車の中央にあることを確認してください。レバーを締める際に車輪を傾かせたままだとその角度のまま固定できてしまいますが、それでは路上走行時には直進安定性が損なわれますし、トレーナー上ではタイヤの偏摩耗を引き起こす原因となります。

**!** レバーの締め込みが緩いと、使用中に突然後輪が外れて落車するなどの事故につながります。

## 自転車を取り付けます

1

まずはじめに、後輪ハブ軸を左右から挟み込むカップリングをあらかじめ広げておきます。カップリングの移動はそれぞれノブやハンドルを回して行ないます。

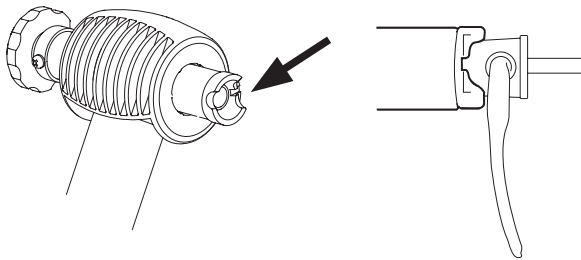


左側はパイプがほぼ 右側はできるだけ右に  
左右均等になるくらい 寄せておきます

2

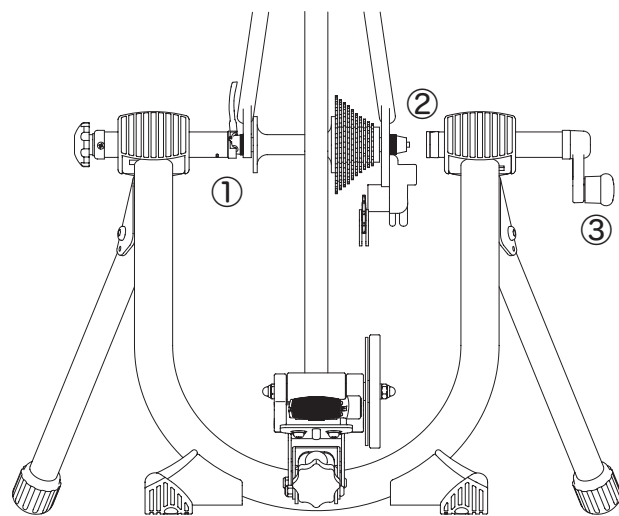
左側のカップリングには、クイックリリースのレバーの根元がカップリングの縁に乗り上がってしまう確実な締め付けができなくなることを防ぐために、大小各1ヶ所の切り欠きが設けてあります。

あらかじめ先端カップリングを回して、大きい方の切り欠き（矢印部分）をクイックリリースのレバー位置に合わせておいてください。



3

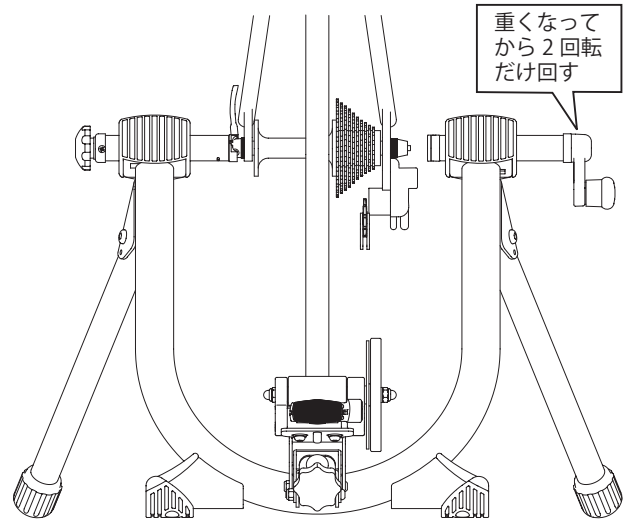
- ①まず左側（クイックのレバー側）カップリングに後輪ハブ軸の左端を挿入します。
- ②そのまま自転車を下げていき、後輪ハブ軸の右端を右側カップリングと同じ高さにします。
- ③そのままハブクランプハンドルを右向き（時計回り）に回していき、後輪ハブ軸を左右から挟み込みます。



右側カップリングを噛み合わせる際は、リアディレーラのケーブルを誤って挟んだり無理に曲げたりしないように注意してください。またケーブルはカップリングの上を通すようにしてください（特にスラムの場合）。

4

ハブハンドルを締めていくと途中から重くなります。そこがカップリングがハブ軸を挟み込み始めた位置になります。そこからさらに2回転だけハンドルを回します。



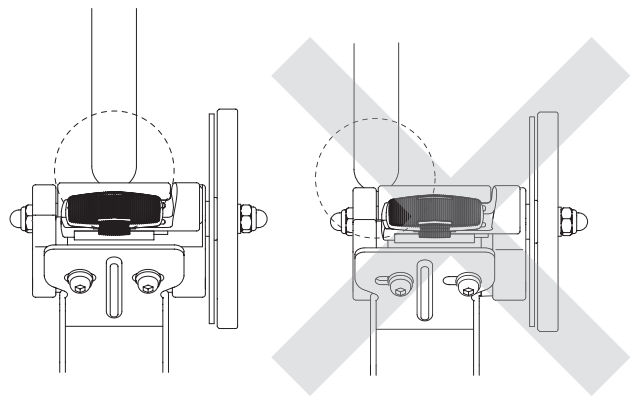
重くなってから2回転だけ回す



必要以上にハンドルを回しても、フレームを無理に広げていって破損させてしまうだけで挟み込みの力は変わりません。2回転だけにとどめてください。

5

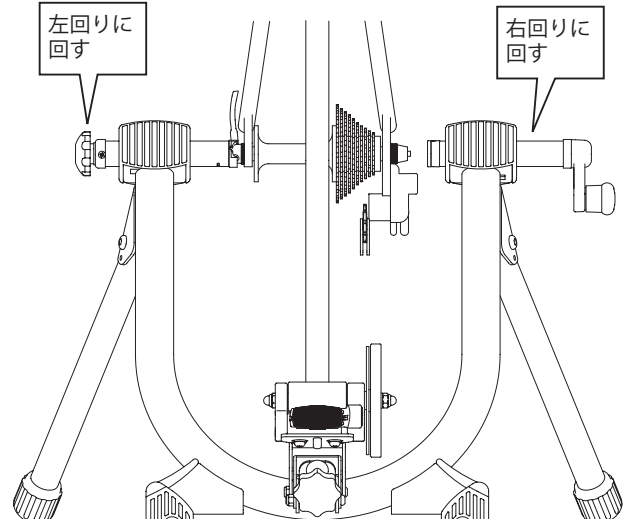
タイヤはドライブローラーのみに接しており、それ以外のどの部分にも触れていない位置でなければなりません。もし触れていたら車輪位置を動かして調節します。



たとえば車輪を左側に移動させたい場合は、右側のハブクランプハンドルは右向きに、左側のノブは左向きに、同じだけ回します。

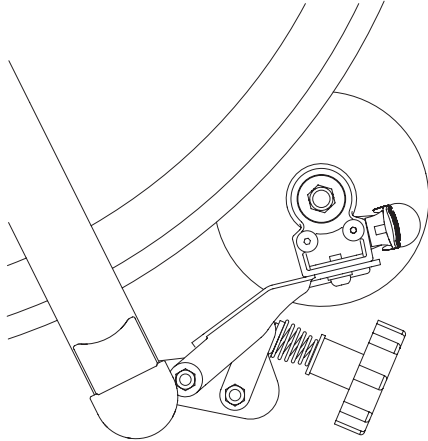
左回りに回す

右回りに回す

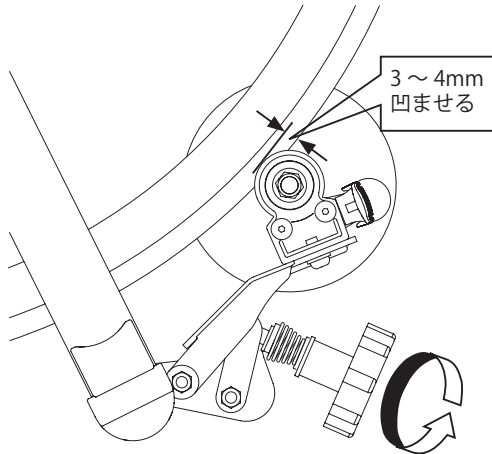


## ローラーをタイヤに押し当てます

- 1** セットアップの最後にローラーを大きく後方に下げておいたので、現在はタイヤとローラーとの間隔は十分にあいているはずですが。



- 2** ノブボルトを右向き（時計回り）に回していき、側面から見てローラーがタイヤを深さ 3～4mm 凹ませるくらいまで押し当てます。



タイヤに対してローラーを押し付ける力加減は慎重に行なってください。ペダルを踏み込んでスリップするくらい押し付けが弱いと、タイヤは通常よりも早く摩耗してしまいます。逆に押し付け過ぎだとタイヤの変形が大き過ぎて過熱し、最悪の場合バーストします。押し付け足りないよりは押し付け過ぎの方がタイヤのためにはいいです。

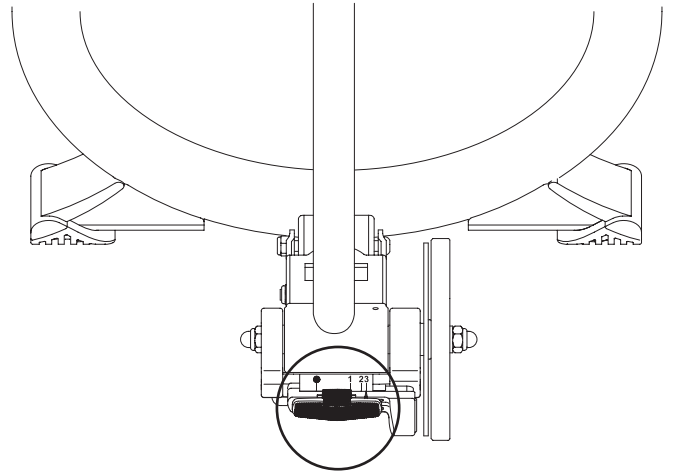


タイヤの空気圧は、7 気圧 (100psi) 以上にしておくことを推奨しています。低い空気圧は異音発生の原因ともなり、またタイヤの過熱により寿命を縮めます。

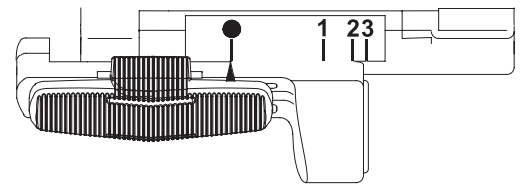
- 3** タイヤの凹ませっぱなしによる変形癖を防ぐため、使い終わったら加圧調整ノブを左向き（反時計方向）に回してローラーをタイヤから離しておくことが望ましいです。

## 負荷調整のしかたについて

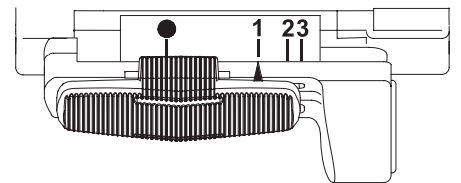
MagRide-Q ではその負荷レベルを 4 段階に切り替えることができます。負荷調整はローラーの下にある赤いスライドレバーを左右に動かすことで行ないます。



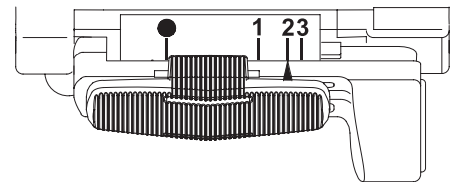
- ポジション** 最も軽い負荷（約 70W/40km/h 時）エクササイズやウォーミングアップの最初に使用し膝を温めます。



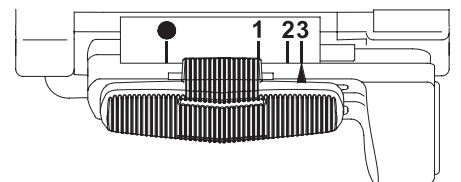
- 1 ポジション** 軽い負荷（約 100W/40km/h 時）30 分程度の軽いレベルのフィットネスに適します。



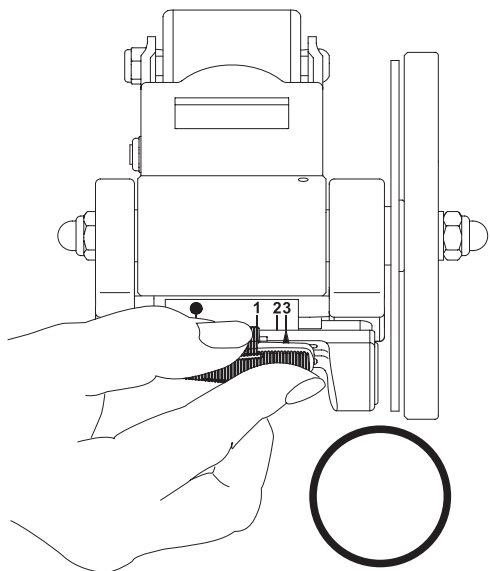
- 2 ポジション** 中程度の負荷（約 200W/40km/h 時）少しくつめのフィットネスや、オフシーズン時の筋力維持用に適します。



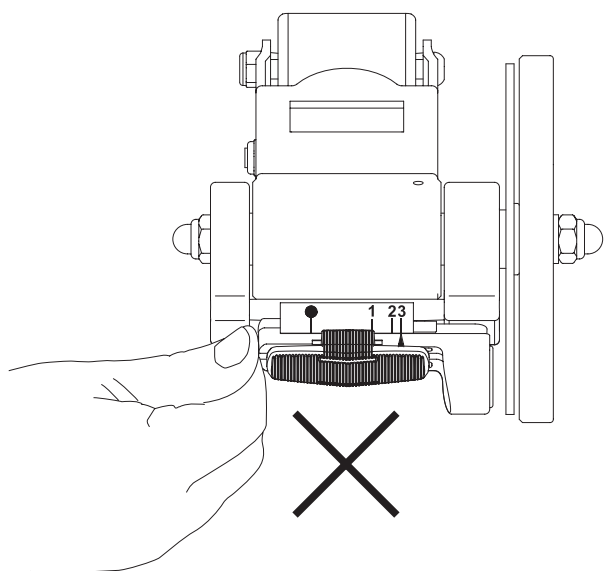
- 3 ポジション** 最も重い負荷（約 300W/40km/h 時）坂道トレーニングを想定したシーンで使用します。



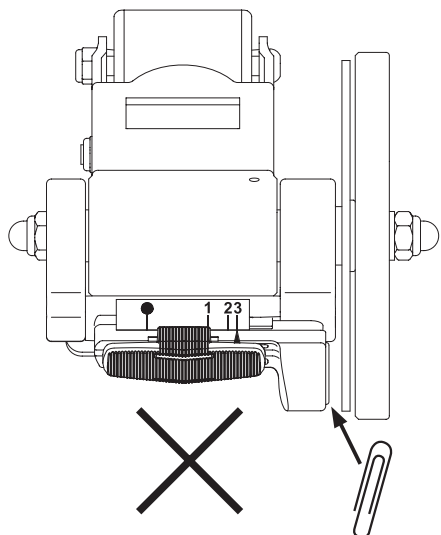
負荷調整は、赤いスライドレバーのみを持って行ないます。他はさわりません。



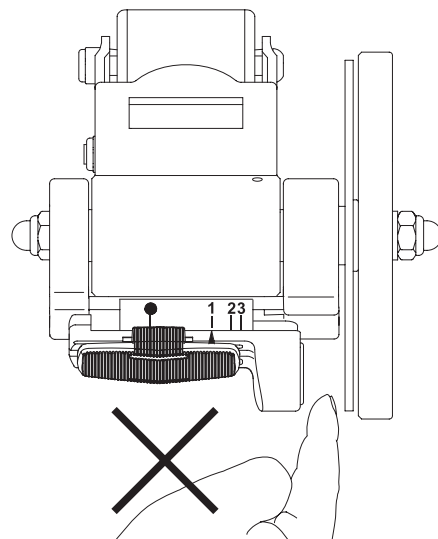
負荷調整を行なう際には、赤いレバー部以外のところを持って動かさないでください。裏側のバネが外れて完全故障になってしまいます。



磁石は露出しています。金属片や砂鉄などを付着させてしまわないように気をつけてください。

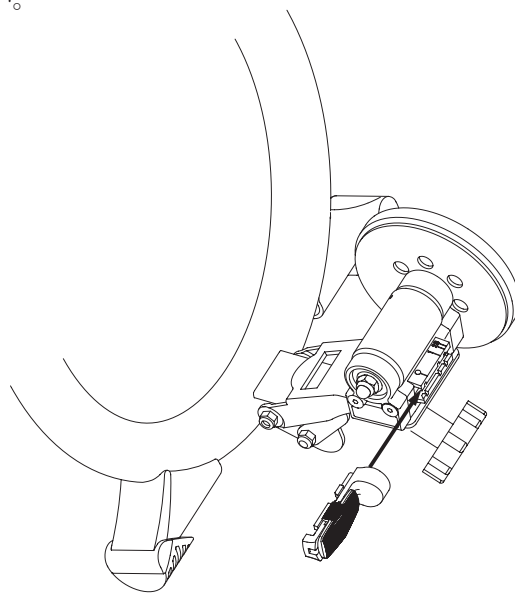


レバーを動かす際に、磁石とアルミプレートとの間に指などを挟まないように注意してください。磁石はとても強力です。



### 磁石ユニットが外れてしまったら

●ポジションに動かす際に勢いあまって磁石ユニットが外れてしまうことがありますが、それは特に故障にはなりません。側面からレール部にスライドさせてはめ込み直してください。



## 小径ホイールアダプタ (別売)

必要な工具： 10mm スパナ / M4 六角レンチ (添付なし)

MagRide-Q でおよそ 26x1.75" 以下のサイズのタイヤを使用する場合は、別売オプションの Z 型をした小径ホイールアダプタを、負荷装置と台座金具との間に装着して負荷装置のローラー位置を持ち上げてやる必要があります。

アダプタは装着方向が決まっており、その向きは矢印として上面に印刷してあります。この矢印を自転車の進行方向に向けて装着してください。もし「小径ホイールアダプタを装着してもローラーがタイヤに届かない」という場合は、このアダプタの装着方向が誤っていることが原因です。もう一度お確かめください。

もともと負荷装置に付いていた丸頭のボルトは台座金具にアダプタを装着するのに使い、アダプタに負荷装置を装着するには六角頭のボルトを使って、その締め付けには 10mm スパナを使用してください。

